

尻別川水系河川整備計画（原案）  
に関する公聴会

日時 平成21年7月21日（火）  
場所 蘭越町民センター らぶちゃんホール

## 1. 開 会

### \*事務局（渋谷）

開会に先立ちまして、会場の皆様をお願い申し上げます。公聴会を傍聴される方は、受付で受付簿に必要事項を記入してください。まだ受付簿に記入されていない方は、後ほどで結構ですので、ご記入をお願いします。

公聴会の会場において、ピラ、チラシ等の配布はできません。会場内では、携帯電話の電源を切るかマナーモードにし、使用をお控えください。公聴会開催中は静粛に傍聴することとし、拍手その他の方法により賛成、反対の意向等を表明することはできません。やじ、私語など、会場の秩序を乱したり進行の妨げとなるような行為はお控えください。これらのことが守られない場合は注意しまして、なおそれに従わないときには退場していただく場合もございますので、よろしくをお願いします。

また、あらかじめ公述人の方々にはご了解をいただいておりますが、私ども事務局で公聴会の記録のために撮影と録音等を行わせていただきたいと思います。ご意見等につきましては、後日当部のホームページで公表いたします。

それでは、ただいまから尻別川水系河川整備計画（原案）に関する公聴会を開催いたします。

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。私、本日の進行を務めさせていただきます、小樽開発建設部工務課治水専門官の渋谷でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず初めに、お手元の資料の確認をさせていただきます。お手元には、議事次第、公述人名簿、公聴会傍聴にあたってのお願いをお配りしております。公述人の方々には、公述にあたってと題しました公述の要領を配付させていただきます。

それでは、開会に当たりまして、主催者であります北海道開発局小樽開発建設部工務課課長の椰野より挨拶申し上げます。

## 2. 挨 拶

### \*事務局（椰野）

ただいまご紹介にあずかりました、小樽開発建設部で工務課長をしております椰野と申します。私ごとでございますが、先週の14日付で釧路のほうからこちらのほうに参って、何分ふなれでございますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、北海道開発局を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。

本日は夜分にもかかわらずお忙しいところご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

小樽開発建設部におきましては、平成20年3月に策定されました尻別川水系河川整

備基本方針を受けまして、本年の1月7日に尻別川流域委員会を設置させていただきまして、6月2日に開催しました第2回尻別川流域委員会にこの原案を提示させていただきました。

6月8日からは、地域住民の皆様には原案を閲覧していただきまして、原案へのご意見を募ってきたところがございます。この原案に対する意見の収集状況等につきましては後ほど報告させていただきますが、本日公述人としてご出席されました佐々木様、志比川様におかれましては、書面の意見に加えましてご自身で公述をいただくことにつきまして、この場をかりて深く感謝を申し上げます。

今後、よりよい尻別川としていくための河川整備計画を策定していくには、皆様方のご協力をいただきながら進めていきたいと考えております。甚だ簡単でございますが、開会の挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### \*事務局（渋谷）

続きまして、公述をいただきます前に、尻別川水系河川整備計画（原案）に対しましてさまざまなご意見が寄せられております。その意見の収集状況につきましてご報告並びに公述方法についてご説明させていただきます。

まず、ご意見の収集状況につきまして、小樽開発建設部流域計画官の小原よりご報告いたします。

### 3. 原案に対する意見の収集状況報告

#### \*事務局（小原）

ただいまご紹介にあずかりました、小樽開発建設部工務課で流域計画官をしております小原と申します。よろしくお願いいたします。

本日ご意見をいただきますのは、今後おおむね20年間の整備内容を示す尻別川水系河川整備計画（原案）に対してのものでございます。関係する市町村にお住まいの皆様からご意見をいただくに当たり、尻別川流域の羊蹄山麓7町村の役場、小樽開発建設部工務課、蘭越河川事業所に原案を置かせていただきました。ホームページにおいても、6月8日から7月7日まで閲覧できるようにしておりました。

その縦覧等意見募集をした結果につきましては、ファクス、郵送を通じて6名の方から意見をいただいております。そのうち公述希望者が2名いらっしゃいました。寄せられました意見につきましては、今後尻別川流域委員会の各委員に報告させていただくとともに、その意見と北海道開発局の考え方をホームページにおいて公表する予定であります。また、尻別川水系河川整備計画（案）を作成する段階で、必要に応じて参考にさせていただきます。

以上、ご報告申し上げます。

\*事務局（渋谷）

続きまして、公述方法について、小樽開発建設部工務課砂田課長補佐よりご説明させていただきます。

4. 公述方法説明

\*事務局（砂田）

ただいまご紹介にあずかりました、小樽開発建設部工務課課長補佐の砂田でございます。公述の方法について説明をさせていただきます。

本日公述される方におきましては、お手元の公述人名簿に五十音順に記載をさせていただいております。本日の公聴会では、2名の方にお越しいただきました。大変ありがとうございました。

ここで公述人の方々をご紹介させていただきます。蘭越町の佐々木幸作様。よろしくお願いいたします。蘭越町の志比川武様。よろしくお願いいたします。以上2名でございます。

既に公述人の皆様にはお知らせしたとおりでございますが、公述をなさる方は、あらかじめ提出していただいている意見書の範囲内で公述をしていただきたいと思います。

公述時間は1人当たり15分以内とさせていただきます。時間配分の目安としまして、公述開始後12分で一度合図の呼び鈴を1回鳴らさせていただきます。残り3分ということでございますので、15分以内で公述を終了していただくよう重ねてお願い申し上げます。また、15分経過したときにもう一度呼び鈴を2回合図をさせていただきますので、速やかにまとめていただくようお願い申し上げます。

公述は名簿順にお話をさせていただきます。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

\*事務局（渋谷）

ここで本日の公述の意見を聞かせていただく北海道開発局の出席者を紹介させていただきます。

先ほど挨拶いたしました小樽開発建設部工務課長の柳野でございます。同じく工務課長補佐の砂田でございます。蘭越河川事業所長の久保でございます。北海道開発局河川計画課流域治水専門官の梶井でございます。

また、傍聴される皆様にお願いがございます。本日の公聴会では、傍聴される方は意見などを述べることはできません。発言等は控えていただきますようご協力をお願い

たします。

それでは、早速ですが、公述をお願いいたします。

蘭越町の佐々木幸作様、よろしくお願いいたします。

## 5. 意見の公述

### \* 佐々木 幸作

ただいまご紹介にあずかりました佐々木でございます。私の意見書に書いた内容についてですが、私の家の前の河道内樹木が生い茂っている。最近蘭越町（尻別川）では大きな洪水がないが、あふれるのではないかと心配しているということで意見書を出しました。2といたしまして、小樽開発建設部は今後河道内樹木をどのように管理するのかということをお尋ねして、書いたところでございます。

私は今現在63歳になります。少なくともこの川については、55年ぐらい見ていることになります。まだ築堤もなく、野っ原の状態の尻別川を私は記憶しております。工事をすることによって随分尻別川は変わってきたなど。

課題としています樹木についてですが、私は床上浸水を4回ほど経験しております。後ほどそれについてお話ししますが、樹木については砂利の上ののっかっている木ですから洪水には弱い。普通、水のふえた程度の水害ではその樹木のところに、ごみとか木とか、全部置いていってしまう。最近ではビニール製品も随分多いのかなと思っています。

これが洪水の際に悪さをいたしまして、樹木の根が浅いものですから、全部はぎ取られていくという状態になるわけです。またそれがひっかかって悪さをします。海岸まで出ていってまた悪さをするということになると思います。この点について小樽開発建設部はどのようにお考えですかということで書いたところでございます。

63年の間に4回ほど床上浸水をしているわけですがけれども、これまた惨めな話でありまして、尻別川におかれましては、洪水の際には樹木がごうごうと押し寄せてくる。あの水害の音というのは二度と聞きたくないなという感じがいたします。

私のところはホロシツナイ川という川をしょってしまして、洪水のときには必ずその水位までいってしまうわけです。余りにも地区が小さいために、築堤をつくってしまえば地区がなくなるという状況にあります。そのほかに何が考えられるかというとポンプ施設ということになるのですが、何しろはん濫面積が狭いものですから、そのようにならないのではないかとと思うところでございます。

水害時、私が一番惨めだなど思ったことをこれから述べさせていただきたいと思えます。この中で経験した人もあろうかと思いますが、水害時の水が来るとき、10分置き、30分置きに目印をつけながら、何cm上がってきたということできっと計算していくわけです。いよいよもう危ないぞということになってくると、そのようなことはしてい

られないわけです。時間がないわけですから。住宅というのは、高額な家財類は何でも用意しようと。屋根裏までぶち抜いて上げる段取りということになります。

上げるのですが、1回目は見事に全滅ぐらいにやられました。ということは、水害の経験というのがなかったわけです。このくらいでおさまるでしょうということで対応して、畳やら何やら家財道具を全部上げておくわけです。ところが、それをはるかに越えてきた。家屋全滅の状態ということになります。住宅というのはほかの建物と違って、本当に水害に関しては、テレビ等でよく水害で床上浸水という話を聞くのですが、思い出したときにざわっとするほど惨めなのです。

例えば、床に敷いているフローリングがあります。皆さんも同じだと思います。そのフローリングが、1日目はそのままおさまっているのです。木というのは膨張します。そうすると、平らなはずの床がそっちこっち盛り上がってくるのです。そうすると、その床というのは全部使えなくなるわけです。保険で何とか面倒を見てもらえないのかということになると、壊れたわけではないので、保険も大した面倒を見てくれないのです。農作物はもちろんのこと被害は甚大なるものでございます。

住宅に関しては、床はもちろんのこと、外壁に張っている断熱材というものがあります。それが全部ずり落ちてしまって、水を含んでしまうわけです。それを乾燥するということはまず不可能です。ということは、土台から傷んでくるということになります。よくテレビで見る新築みたいな家が水害に遭っている。本当に気の毒だなと。使いものにならないくらい中は傷んでいるのです。床を張りかえるだけでもかなりの金額になると思います。

1回目は私はどうしようもなく、その床を削りまして過ごしていました。何とかできないものかと。2回、3回やられたものですから、これ以上この家はもたないなど。高台にさっさと逃げました。逃げましたというか、建て直しましたというか、水害に縁のないところまで住宅を動かしました。保険も何も出ないものですから、莫大な金がかかるわけです。日本じゅうどこでも水害というのは、川のふちに住んでいるということについてはついて回ることであります。いたし方ないと思いますけれども、さすがに4回もやられますとこっちもしびれを切らせて、借金してでもやるかと。

現在では住宅、物置だけは高いところに移動しました。いかんせんまだ低いところに建物が残っています。それについてはすぐ逃げれるようにという形で持っていますけれども、その中には動かせない機械がまだ入っているわけです。農家で使う機械というのは、1台300万円とか500万円とかという機械が何台も入っているわけです。これを動かすことは不可能です。水害が来たら即洗い流し、掃除をしてもとに戻しておくというしかないのです。だけれども、機械というのはベアリングとかなんとかいっぱい使っています。水につかったものについてはほとんどが交換になります。いまだにそういうリスクはしょっているわけです。何とかしてほしいなと思っているわけですがけれども、

開発局にお願いをしても何ともならないところだと思います。

63歳になって、さっき言ったとおり55年間川を見ていましたということなのですが、昔の私の先輩で、川というのは人間が手をかけない限りもとの位置に戻るんだよと言った先輩がいます。川の高さが変わらない以上、もとの位置に戻るというのは川の習性なのです。絶対そこに戻るのです。ということは、こういう樹木というのは出てこないことになります。常に洗われていますから。

樹木の件については、私が考えることでなくて、開発局が考えることだと思いますけれども、いかんせん昔からの水位と、要するに今の海拔と比べると、水面の海拔です。随分下がっているなということが目についております。それについては人間が手をかけたことですから、人間の手で何とかなることだと私は信じておるところでございます。その点については、開発さんによろしくお願ひするところでございます。

私が覚えがあるころの開発というのは、今みたいに話し合いを持つ場というのは一切ありません。ということは、開発局イコール日の丸なのです。おまえ、何やってんのよという調子でもって何回も怒られたことがございます。川をいじることもしないのです。自分の本地がどんどん、どんどん欠けていくというような状態でしたので、うちの親の時代なのですけれども、何とか護岸工事をしてくれということで決まったと。それは物すごい喜びようでした。

私は川のところに住んでいたものですから、引っ越しを余儀なくされた身分なのです。現在のところに住んでいたわけではございません。昔私の住んでいたところは今は川になっております。尻別川がごうごうと流れております。そのころの川というのは、本当に何にも手をかけていない状態でした。それから、人命、財産を守るためということでもって小樽開発建設部が設立されたと思います。

それから川をどんどん、どんどん工事をしてきておりますけれども、私の知っている限りでは、全然尻別川で手のかかっていないところがどのくらいあるのかなと思ったときに、この間図面を見ながらやってみたら、200mあるかないかなのです。これが昔のままで石淵で残っています。あとはほとんどのところが手をかけております。これはやっぱり、人間が手をかけたことですから、人間で直さなければならぬところだと思うところでございます。

最初に戻りますけれども、水害については、床はもちろんのこと、洪水の後、住宅に泥が入り、泥が5mm、7mmとたまって、その臭いたるや物すごいのです。ああいう経験はもう二度としたくないと思っております。開発さんにも工事のほうをよろしくお願ひするところでございます。開発さんも悪いように工事をするわけではありませんので、地域住民の言うことをよく聞きながら工事を進めていっていただきたいと思っております。

私が言っております河道内樹木、そのころにはほとんどありませんでした。先ほども

言いましたけれども。この後、樹木に対してやる方法を何とか見つけていただきたいと願うところでございます。鐘が二つ鳴ったので、そろそろ私の時間もないのかなと思っ  
ていますので、この辺で意見として述べさせていただきます。よろしく申し上げます。

**\* 事務局（渋谷）**

ありがとうございました。

続きまして、蘭越町志比川武様、よろしくお願いいいたします。

**\* 志比川 武**

皆さん、こんにちは。おぼんですという時間ですね。私はどんなような形でこの場に  
立ったかといいますと、市民団体ということで、私はランコウシ尻別川河川愛護の会、  
そういう立場から5点ほど意見を書いて出しました。こういった形で役所のほうにファ  
クスで書いて出しました。そんな中の意見をお話ししてみたいと思います。

まず1点目には、尻別川は洪水などの自然災害に対して整備途上ではないですか。地  
域の生命、財産を守るために安心して暮らせる川にしてほしい。こういったことを第1  
点目に書きました。公共工事の使命というのは、地域に住んでいる人の生命、財産を守  
るという大きなことがございますので、したがって税金を投入して工事をする、こうい  
うことでございますので、今後も、私は川上のほうにいますけれども、佐々木さん  
のように水害になる、そういう場所に住んでおられる方もまだたくさんおられますので、  
ぜひ安心して暮らせる川にしてほしいと思います。

2番目ですけれども、流域住民の誇りである尻別川の自然環境を次世代に継承してほ  
しい、こういうふうに書かせていただきました。尻別川は清流日本一ということで、た  
しか連続4年、それとまた連続4年ぐらいで、8回ぐらい日本一きれいな川というこ  
とでございます。そういったことで、今後も9回、10回、11回とずっと続けて日本一  
になれるようにしてほしい。私たちの子供、孫にそれを伝えられるような形にしてほ  
しいものだなと、こういうふうに思っております。

3点目に、蘭越は農業のまちでございます。蘭越の美味しいお米をつくるために必要  
な尻別川の水の確保に努めてほしい、こういうふうに書かせていただきました。皆さん  
蘭越にいる方はご存じだと思いますけれども、大谷の開発の下に水を揚げるポンプ場が  
ありますけれども、そこから大谷地区、淀川地区は一等米のとれるすばらしいところ  
でございます。尻別川の水、それを利用して農業に努めているものですから、水  
の確保のためにもぜひこういったことをしてほしい、そのように考えております。

4番目ですけれども、常日ごろから確かな維持管理が必要である、こういうことを書  
かせていただきました。河川の維持管理です。今は河川パトロールも、毎日ではないの  
ですけれども、週4回か5回程度パトロールをしていると思いますけれども、自分も国



道のほうのパトロールをやらせてもらっているのですけれども、1年365日、一日も休まずパトロールを行っております。また、天候が悪化すると、1日に1回ではなくて2回、3回と、こういうふうのパトロールをしております。

しかし、河川において、例えばきのう、おとといみたく雨が降ったときなんかでも、日曜なんかでも、どんどん雨量に応じてパトロールをするような体制になっているのかというようなことを考えたら、そういったことも将来視野に入れた維持パトロールというのですか、そういったことも必要ではないのかなと、こういうふうに思います。

5番目に、最後のほうなのですけれども、自然保護団体等より工事を行うと自然破壊をするという意見があるようですが、その工事を人工的に自然復元する方法もあるので、整備事業は必要である、こういうふうにかかせていただきました。文章で書くと非常に難しいのですけれども、今まで工事をやってきて尻別川が自然破壊されたのかということになりますとそうではなくて、工事はどんどんやっているのですけれども、清流日本一というのが続いているということは、自然にマッチした工事をしているから日本一が続いている、私はそういうふうに思っておりますので、これからもどんどん整備というのですか、一番最初に言いましたけれども、まだまだ整備の途中であると。堤防の高さなんか、今までは計画して、きちっと高さを出しているのですけれども、本当にそれが安全な計算がされていて、本当に安全なのかということも少し、私は個人的には疑問があります。

昨年でしたか、一昨年でしたか、神戸のほうで物すごい水害というのですか、局地的な豪雨によって水かさが一遍に多くなってくる。この尻別川も将来に対してそういったことが全くないと言えるのか。50年に1回、100年に1回という計画でやっているのですけれども、もしかしたら人間の想像をはるかに超えることがあるかもしれない。それが来年来るのか50年後に来るのか100年後に来るのかわからないのですけれども、公共工事というのですか、そういったものはぜひ必要でないのかなと。

蘭越町は尻別川で一番海に近いほうに位置しているところでございます。特にちょうどまちから大谷のあたり、そこからが水害になる危険というのですか、そういったこともありますので、ぜひ今後もより強固な堤防というのですか、そういったものをつくっていただきたい。強固な堤防をつくったと思っても、南西沖地震ですか、そういったことで大丈夫だと思った堤防がものすごく壊れたという、過去にはそういう例もございますので、緊急にそういうところは直しましたけれども、本当にこれから堤防は大丈夫なのか、そういったことも含めた中で、確かな維持管理あるいは計画、そういったものが必要ではないのかなと。

話はそれるかもわからないのですけれども、河口から24kmが蘭越町、開発局の一級河川なのですけれども、その上はいいのかと。そういうこともありますけれども、道と開発と協議してやっているということでございますので、そういったことも尻別川を守

るためには大事なことではないのかな。私も死ぬまで蘭越に住みたいと思っております。そんなものですから、安全な川、安全な工事、安全な堤防、そういったものをぜひ次の河川整備計画に向けて、少ない町民の意見というのですか、そういったことも取り入れてやっていただきたいと思いますので、よろしくお願いをしたいと思っております。

こういうところに来るとしゃべれないものですから、15分という時間をかなり余したのでないかと思っておりますけれども、以上で私の意見を述べさせていただきました。ありがとうございます。

**\*事務局（渋谷）**

どうもありがとうございました。

これで2名の方の公述が終了いたしました。それでは、小樽開発建設部工務課長の椰野より皆様へお礼申し上げます。

**\*事務局（椰野）**

本日は貴重な意見を賜りまして、まことにありがとうございます。本日のご意見を踏まえまして、河川整備計画の策定を進めていかなければならないというふうに考えております。引き続き尻別川の河川事業につきましてご理解とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。本日公述していただいたお二方につきましては、今後もよろしくお願いしたいと思います。

簡単ではございますが、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

**6. 閉 会**

**\*事務局（渋谷）**

最後になりますけれども、本日公述いただきました内容につきましては、小樽開発建設部のホームページのほうでも公表させていただく予定であります。本日は本当にありがとうございました。

以上をもちまして尻別川水系河川整備計画（原案）に関する公聴会を終了いたします。お疲れさまでした。